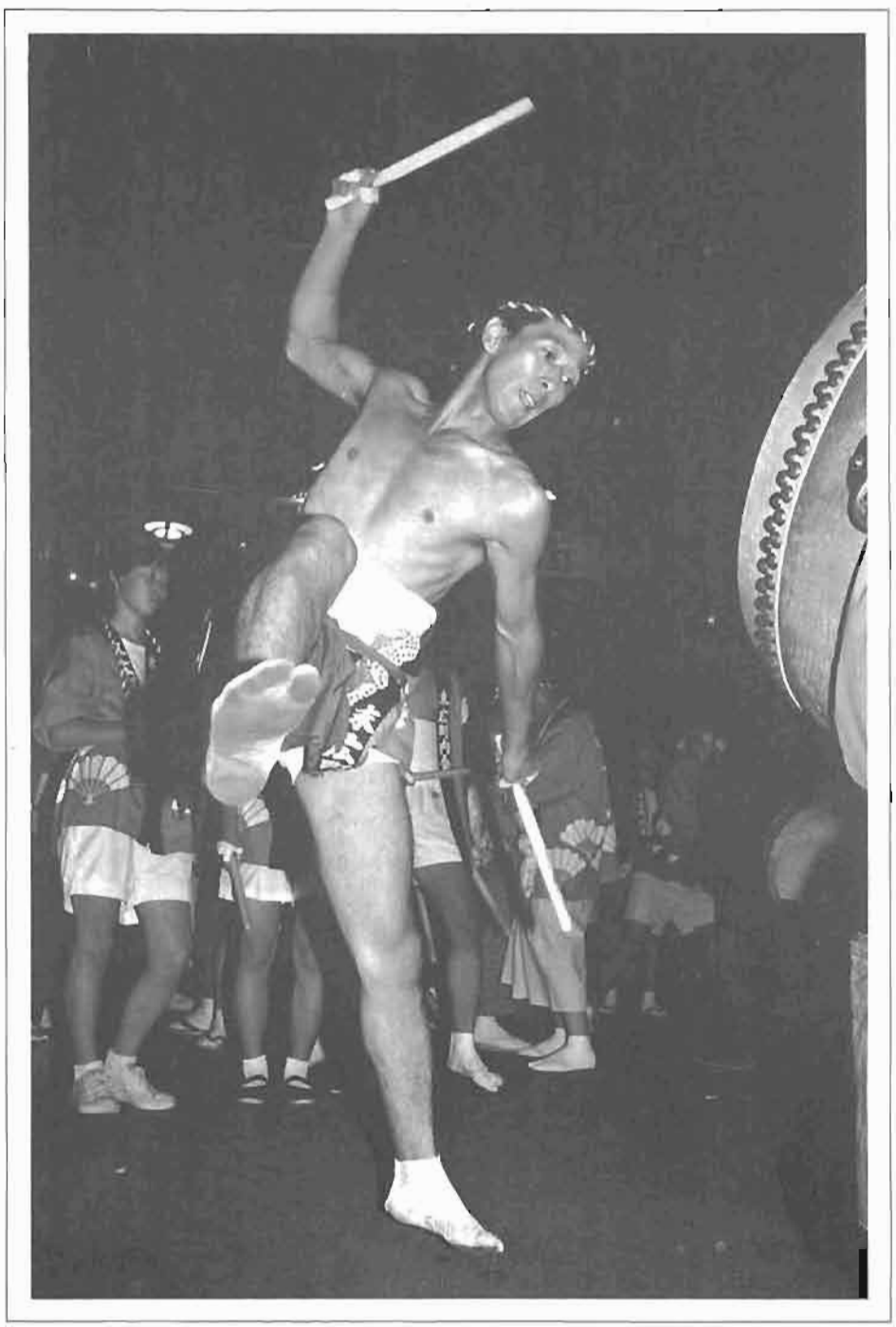
昭和60年

11月号

広報いまかね

No.322



まつりばやし 秋風にのって「秋まつりから」

◇第2回議会議員町政報告会◇

豊かで明るい21世紀のまちづくり



昨年、連合部落町内会から要請を受けて第1回が開催されました。この報告会が今年も昨年同様に10月11日町民センターにおいて催され、百人あまりが傍聴、各議員の抱負や議会経過について、諸問題の報告がありました。

今年度の出席議員は、村本、渡辺、谷田、笹森、本田、徳田、田中、荒井議員の8名です。

開会に先だち、大倉連合部落町内会長から、この開催経緯について「57年に連合部落町内会長会議の議題となり、町議と町民との関連について話題になった。

議員は何をやっているのか!! 判明しないことから、相談した結果、報告会を開催してはとの結論に達し、お願いしたものです。今後においても場所を変え、コミュニケーションを得て良いまちづくりをして行きたい。有意義に聞いてほしい」とあいさつ。各議員持ち時間15分で登壇しました。

村本議員＝今金町のためにと議員になり今日に至っている。

高度経済成長時代はまだ気楽であったが今日は厳しく、冷害等の問題と苦労の面が多い時代である。議員として町民の福祉向上、明るく住みよいまちづくりである。「議員は何をしているのか」の批判にはコミュニケーションがたりなかったものと思う。

町政の基本は、条例の制定である。理事者からの提出が正しいかどうかと審議をすることである。町民の要望に答えるには、町政懇談会が開催されている。委員会の所管事項について審議している。

一番大事なことは、過疎化の問題である。どう食い止めるか、所得増進を図るかと、私の立場で仕事をしてきた。

国鉄の問題、食糧事務所、農業改良普及所の合併問題、営林署統廃合の問題がある。この問題は過疎に直結する。

国鉄貨物駅の廃止については、農産物の取扱いが多かった。努力したが、あまりにも貨物にこだわると客車便にも影響するの説に、やむなく同意した。

食糧事務所については、出張所と言う格付があった。当初22名が配置、現在17名となるなど時代が変っている。

普及所については、北檜山に合同庁舎が建設され統合したいとある。面積、出荷物は今金が多く、働く場所、環境の整備が必要として新庁舎の建設をしている。

過疎化の中で企業誘致も大企業は無理である。現在ある施設の存置、育成強化をすることである。食品工場を改築し、コロッケ工場「酒井屋」の誘致をした。農村であり、地場産業の育成に全力投球をしている。皆さんの協力が必要だ。

基幹産業の農業の育成、労働場所の確保が大切である。長期計画をきめ細かく総合的判断が必要だ。

貿易の自由化の問題もある。経営面積の拡大、生産の増大、コストアップ、販売体制の確立づくりが必要だ。社会は人と人とのつながりである。人づくりが大切である。皆さん共々努力したい。

渡辺議員＝議員として何をやってきたかの説明には、立法と行政は異質のものではなく、目的は同じである。

町長は親行権をもっている。一般質問で答うことである。私は、これからどうあるべきか、やってもらう方向づけである。最大の政治課題は、過疎の脱却である。行なうのは大変である。

今、今金の経済依存はどこにしているかと言うと、土木建設業、職員たちに依存度が高い。農業は低い、農産物は落ち込んでいる。労働は土木面が高い。国の公共事業がひかえめになっている。酒、タバコ類が財源となって交付税として国から町に配分されている。その地方交付税も見直しをと言っている。

これからの経済浮揚は至難であるが足もとを見つめて行くのが政治家の課題である。

コロッケ工場「酒井屋」で口名が働いている。一ツの足がかりとなって活性化になればと取り組んだ。農業の落ち込みは、馬産振興、肉用牛の導入を図り、地力の増進をしているが生産はあがらない。有畜農家の育成によっての伸率は、5分の1程度である。

農家も一時は、1700戸あまりあったが、現在では670戸に減少している。有意すべきことである。しかもこの内38パーセントが後継者がいないことである。離農などで職種が変化している。

離農による買い手のない放棄農地は誰れが管理するのか。

町には催荒資金9億がある。この有効活用を図ってほしい。大きな課題については、サミットの開催が必要だ。今金の有識者の会議をもち「どうすれば良いかを検討したい」過疎化の中で買ってもらえない農地をどうするかである。夢物語として、地理的条件から飛行場の建設である。今後たち遅れないようにサミットの中で検討、前進をとげたい。

谷田議員＝今金唯一の農業について、豊かで明るい住みよいまちづくりを目指して、米、肉用牛、酪農を三本柱に活力あるまちづくりが必要だ。命の母である土を肥すことが基本である。

農家負債対策であるが、85億の額になる。他力方願ではなく自立が必要である。努力してほしい。

償還についても5～10年末置を20年以内と長期資金条件に緩和している。土づくりが大切であり、黒毛和種の導入に関連するが、町と農協が連携をもって217頭を導入している。町全体では500頭、64戸になった。将来的には1500～2000頭が必要だ。1町歩1頭が最良だ。活力ある経営の徹底した土づくりである。良質米の生産であり、味が求められている。良いものが消費拡大につながる。

北部檜山右岸かんばい、用水路の改良、神丘の畑地かんがい、排水改良、土地基盤の整備と所得の増加を図っている。百年の農業体系をもって進めている。

福祉については、幸せが条件、保健婦の増員が必要である。現三人を五人程度にしたい。更には保健センターの建設を図りたい。

予算はひっ迫している町と議会が協力しあい、努力には無限の可能性が有している。休むことなく住民の幸せを願うものである。

笹森議員＝福祉について言いたい。健康で明るく、住みよいまちづくりには重要な課題である。幸いに福祉に対する熱意から施設に恵まれている。光の里、豊寿園がある。高齢化現象は本町のみではない。

60年度における町の計画対策は、児童手当の支給、保育所の開設、乳幼児とか具体的なものが実施されている。母と子の対策については助成、資金の貸付、心身障害者の助成、対応がなされている。更には、奨学資金、低所得者に対する資金貸付、在宅老人にはヘルパーの派遣、給食のサービスをしている。

今後、社会福祉協議会を中心的に福祉の役割を果すべきであり、皆様のご協力を願いたい。当分は行政指導形が続くであろうが、頼らず取り組んで行くべきである。努力したいのでご指導願いたい。

本田議員＝道路整備、産業の振興、老人福祉と明るいまちづくりを願う意志には変りない。

私は道路整備を訴えてきた。理事者は財政の確保に苦労している。排水溝の整備は生活にとって必要だ。町政懇談会でも50パーセントは道路問題である。

今回の災害で住宅の浸水、農地の冠水と、この対策が必要だ。福祉について課題になるのは、高齢化をどうするかである。国、道・町と分担して行なければならない。地域家庭においても自分の健康管理が大切である。また取り組みが大切である。社会教育が必要だ。社会的に検討しなければならない。

労働については、職場の拡大としてコロッケ工場、花石のメノウ設備と働く場所の拡大をしているが、営林署の統廃合の問題があり、存続が必要である。

じん芥処理施設についての課題は、有料化である。料金を取るかどうか検討、60年度中に結論が出るので報告する。

議員としての職務責任をまっとうして行きたい。

海外派遣を受け6ヶ国をあるいてきたが、日本の伝統の見直しなど勉強になることが多かった。詳細については機会を見て報告したい。

徳田議員＝日本は、世界2位の経済大国となった。それは、日本人が勤勉で働き者であり、教育があったればこそである。

経済大国として世界的に発展してきたが国の財政はと言うと赤字である。この財政再建が大きな政治課題である。再建方法として歳出を切りつめることであり、行政改革の必要性が強調、増税なき財政再建である。そのしわ寄せが地方自治体にきている。

財政事情が厳しいからと言っても地方自治体は「まちづくり」を休むわけには行かない。地域の過疎化が進む中で増々高齢化

地下資源の開発、空港の建設も……

社会になりつつある。こうした中で、多様化、複雑化している住民ニーズに答えるまちづくりをするかが21世紀にむけて行政に携わる者の使命である。

一村一品についても一夜づけでは出来ない。計画的に進めるべきである。これからのまちづくりには、「より活力ある」地域に根ざしたものが必要だ。創意工夫、地域らしさ、魅力である。

我が町をどうするか、私は、ローカルエネルギーの開発利用だと考える。地熱や熱水利用である。日本は火の国と言われる火山国であり、自然エネルギーの大国である。今、美利河地区において地下資源調査所が電気探査をすることになった。

美利河は学術的に有望視されている。高温岩体より熱エネルギーの抽出、これに水があると温泉として利用できる。また、発電や食品工業、農林業、温泉、レジャー等の施設利用ができる。新しい町づくりになる。

現社会制度の中で、新情報の提供いかんによって民間活力の活用が図られる。これがニューメディアの時代であり、新社会システムに対処できる人材を育てるのが行政に課せられた使命である。

田中議員―昔さんのためになれるような、頼られるような議員を目指している。

私一人の議会ではない。10年度の要望事項に農業、道路、福祉など、昔さんの期待にそうよう努力中である。今年の台風13号による集中豪雨被害について2日間にわたり調査、理事者にお願いした。

私の抱負は、人口過疎である。本町には地場産業の育成、企業の促進である。我が町の活性化を強調している。主張は、本町特有の「いも焼酎、つけ物」等で農産物の付価価値をたかめることを訴えてきた。

理事者は、調査し軌道にのせたいと言っている。議場になっているコロッケ工場も創業して成功できることを祈る。総合公園が計画されているが早期実現を望むものである。

農井議員―本町の基幹産業は農業である。農業の発展なくしては今後町の発展はない。

施策について考え、理事者に質問努力してきた。今回の報告会について、私は、一般質問の中から報告する。振興施策として経済安定のため、農地の拡大、東部開発、経営規模の拡大、地力の培養が重要な課題である。

土づくりに全力を投じることが必要だ。牧草栽培、地力増進を図ること、本町農業の転作の安定をすることである。複合経営を中心とした作物の安定対策が大切である。野菜、集団経営、土づくり、畑地づくりには複合経営が必要だ。

神千首畑の有効利用であるが将来的には北部檜山の試験圃場として、この実現に努力したい。

企業誘置には積極的に進めて行く。現状にあった進め方が大切であり、民間活用が町の発展課題である。

鉄柵線の廃止の問題もある。過疎対策が必要、努力しなければならない。町発展に必要なのは、農業、商業と全般的なものであり、後継者の問題である。料りょが問題、重要である。私も努力してきたが、これからの今金町の発展、繁栄のためには、更に一層努力したい。

人口問題、花嫁の問題一本にして努力したい。明るく豊かなまちづくりに努力する。

以上のような概要でありますが、8人の議員から報告がありました。

終りに、大倉連合運営町内会長から「厳しい財政状況のおりから議員の真価が問われる時期である。報告には、先き明るい思いがする。より良い明るい町づくりに私共々、努力したい」とあいさつ、議員は、傍聴者からの大拍手を受けて退場いたしました。





町民への訴え

日本農業の発展と国民食糧の安定確保
―21世紀の農業―



日本は、世界的に経済大国と言われるまでに成長しました。その影には、社会構造が変化し、過密、過疎化、食糧の海外依存、農地、森林の荒廃、公害とさまざまな問題が生じています。

こうしたことから、21世紀に向けての国づくり、見直しとして農業のもつ役割は大きく、この主旨を国民、道民、町民に訴えて行くことの決議を、全国農業会議所、北海道農業会議が、町農業委員会では、9月25日総会を開催し、この決議をしました。

決議の具体的内容は

[1] 豊かな国づくり、北海道づくり、郷土づくりを目指した地域産業の均衡ある発展、産業振興と農家の活性化、更には、都市と農村とのバランスのとれた社会構造の配慮、また、内需要の拡大を目指した経済、国土資源の有効利用を図るべきである。

[2] 安心できる食糧の確保については、世界規模での食糧危機を克服、国内の食糧の確保であり、先進国の中で、日本は、最低の食糧自給率である。輸入によらず国民が安心して生活できる生産体制の確立が必要である。そのためには、優良農用地の確保と有効利用の推進、農業後継者、自立経営農家を育成する農業構造の改善、一層の推進である。

[3] 新しい貿易秩序の形成として、農業等をはじめに国の基礎産業を発展させるには、対外経済摩擦の緩和、秩序ある貿易制づくり、諸外国との調和ある農業発展である。

[4] 農業は、食糧の供給のみならず、国土保全、自然環境、豊かな人間形成と多様な役割を持っていることの再認識、国民、道民、町民の緑あるふるさとづくりを目指して農業の活性化を進める。

以上の四項目です。

委員会は、「こうした主旨を皆さんに再度認識、理解してほしい」としており、ありとあらゆる機会を利用して、この訴えを展開することにしています。

現在、この運動として、町を始め農協や改良区、婦人団体、商工会等に呼びかけをしているものです。特に、町内各位の理解をしてほしいと話しておりました。

農林水産大臣から感謝状

今金町字徳正
吉川 利昭さん（56）

この表彰は、農林水産省で実施している、牛乳生産費調査記帳農家として5カ年間にわたり協力されたことに対し、10月18日「統計の日」にこの感謝状が贈られました。

この伝達が農林水産省統計情報事務所北檜山支所においておこなわれました。

家庭は非行の"防波堤"

11月は「全国青少年健全育成強調月間」



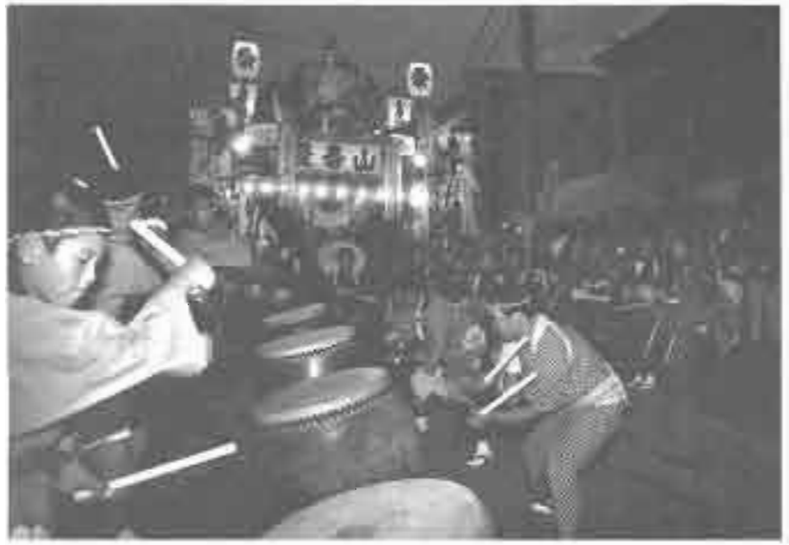
家庭は、子供の人格形成にとって最も基本的な役割を果たす場です。子供が自主性と存在感を持ち、愛情、公共心、責任感などを培えるよう、親子の触れあいや対話を心がけましょう。

秋まつり

有志集り「花山」くり出す

キラ キラ 笛 太鼓 あせ

■■■ふる郷の伝統維持■■■



燃えに燃えた秋まつり「実り」を祝う

道南沿線最後のお祭りが、9月19～21日と晴天に恵まれた中で繰り広げられました。

国道沿には露店が軒を並べ、家族づれや子供たちで祭り一色で賑わいました。

例年くり出されている花山車は、町内会で問題が生じ、今年は中止の決定がされ、それは大変と有志たちが同志を集い、今金町の伝統を守ろうと役場職員を始めとして、建設協会、商工青年部、農村青年部の人達220人が参加。10日前から連日連夜、花山車づくりにとりかかり完成しました。

本祭りでは、大鼓57人、踊子20人、綱を引く人等を含めると200人を越える人達、笛や太鼓、踊りと街のすみずみまで練り歩くなど、街いっぱいの秋まつり。夜、終番を迎え、昭和町商店街において、商工青年部が繰りだす「青栄山」と有志会が繰りだす「豊寿山」との太鼓合戦が壮烈に展開、汗とび交し、声ふりしぼってのけんか太鼓のバチ音が時を忘れるほどに響き、祭りばかが大集合、燃えに燃えて、拍手ハクシュと最後を飾っていました。

収支についても当初計画した1200千円を上回る1586千円と町内各位のご協力を得て赤字になることなく無事済んだことを発起人、参同者一同喜んでおりました。

「街角の話題」

白鳥飛来



白鳥の家族と思われる五羽が後志利別川、今金橋三〇〇メートル上流に羽根を休めているものです。

10月21日町内の方から連絡を受け、駆けつけてみました。人なつこく、近くに寄っても逃げようとはしません。ただ、突然の珍客にカラスの長九郎君はおどおど、回りを飛びまわり落ちつかぬ様子でした。

白鳥を国語辞典で見ると、ガンオウ科の大形で、全身白色。こう。スワン。ーざ（ー座）銀河中の星座の一つ。星のならびが白鳥の飛ぶ姿に似ているからという。（ー説話）白鳥がおとめの姿となって現われ、鳥となって飛び去るという伝説。「羽衣」も、この伝説の一つ。とあります。

シベリアの、あまりにも厳しい寒気に耐えかねて、きたのでしょう。白鳥にとっての住みごこちはどうかわかりませんが、温かく見まもって上げたいものです。

お母さんしっかり

お茶の水女子大学教授
附属幼稚園園長
外山　滋比古

生まれてすぐ赤ちゃんに話しかけてやる、はじめのことばは母乳と同じようなはたらきをします。それで、私はこれを母乳語と呼んでいます。

いつまでもこれだけではいけません。ことばでもやはり離乳します。離乳したことばに離乳語という名をつけました。

本当の離乳と違うところが二つあります。ひとつはことばの離乳は三歳から三歳半になって始めること。もうひとつは、離乳したあとも、日常生活ではいぜんとして母乳語が中心だという点です。

母乳語は、オカアサン、オッパイ、オトウサン、ワンワンなど具体的なことばです。それに対して離乳語は、目に見えない、さわることもできないものごとを指す抽象的なことばです。

つまり、人間のことばにはふた色あるということです。それなのにいつまでもことばの離乳をしないで平気なお母さんがすくなくありません。

ことばの離乳

ではどうして、ことばの離乳をすればよいのか。ごぞんじでしょうか。

オトギ話をしてやるのです。

といって、まっぴるまから、ムカシムカシとやってはいけません。昼のこどもは活動的で話などきこうとしないものです。おとなしくきくようであれば、ほとんど病気です。

むりやりきかせようとすると、こどもは、〝なぜうちで買ってくるモモから赤ちゃんうまれないの〟などといって母親を困らせます。

夜、眠る前に話します。こどもの目はもうふさがって、口もきけないくらいです。夢かうつつかはっきりしない状態で、ムカシムカシアルトコロニ……とやります。

モモタロウの話ならすくなくとも二十日くらいつづけます。これを二年から三年継続してはじめて、ことばの離乳ができるのです。

昔はどこでもしていたことです。年寄りがいない核家族で忘れられてしまいました。



暖かさが 恋しい季節です



火の取り扱いには十分注意を

〈火の用心　7つのポイント〉

1　寝たばこやたばこの投げ捨てをしない
2　子供には、マッチやライターで遊ばせない
3　風の強いときは、たき火をしない
4　天ぷらを揚げるときは、その場を離れない
5　家のまわりに燃えやすいものを置かない
6　ふろの空だきをしない
7　ストーブには、燃えやすいものを近づけない

●秋季全国火災予防運動　11月26日～12月2日●

みんなの健康 11月

検診を受けて
健康で明るい家庭づくり

	項目	出ていただく方	実施する日	時間	対象地区	実施会場	備考
①	妊婦相談	妊婦の方	5日(火)	受付時間 12:45～14:00	全地区	町民センター	検尿、血液検査、予診、体重測定、診察、保健栄養指導、歯科指導
②	3種混合 (ジフテリア 破傷風 百日せき)	第1期完了の幼児	5日(火) 6日(水) 8日(金)	13:00～ 13:00～ 13:00～	下地区幼児 市街地幼児 上地区幼児	国保病院 町民センター 種川小学校	第1期3回目
③	1歳6ヶ月児健診 乳児相談	生後1,7歳3,5歳児 生後6,8ヶ月児	7日(木)	受付時間 12:30～13:00 9:30～10:00	全地区	町民センター	歯科診察、歯科医師診察、栄養指導、保健指導 保健指導
④	一般相談	全住民	11日(月) 25日(月) 18日(水)	10:00 ～15:00	全地区	町民センター 老人福祉センター	健康相談 保健指導
⑤	無医地区巡回診療	神岳・鈴岡地区	12日(火)	受付時間 14:00～15:00	神岳・鈴岡地区	神岳福祉会館	診療科目 外科 料金無料
⑥	胃集団検診	全住民	12日(火)	9:30～10:10 10:25～10:55 11:05～11:45 14:00～14:30 14:45～15:15 15:25～15:55 16:05～16:35	元宮 豊寿園 福路・金又・田代 美利河 花石 中里 住吉	元宮部落会館 豊寿園 南部生活改善センター 美利河生活館 花石生活改善センター 中里へき地保健福祉会館 住吉生活改善センター	血圧測定 身体計測 尿検査 血液検査 10歳以上肺ガン検診
			13日(水)	9:30～10:30 10:45～11:35 13:10～14:00 14:05～15:05 15:15～15:55 16:05～16:45	種川 南豊受・豊受・田代 八束 豊田 金原・春日井 八鍾	種川生活館 南豊受部落会館 八束初田部落会館 豊田生活館 金生活改善センター 八鍾集落センター	
			14日(木)	9:30～10:00 10:15～10:55 11:00～11:50 13:15～13:55 14:10～14:50 15:00～15:50 16:00～16:50	目基 白石 八束 神丘 〃 鍾乳 光の里	目基寿の家 白石 〃 八束生活館 イマタエル寿の家 神丘福祉会館 鍾岡部落会館 光の里学園	
			15日(金)	9:10～11:50 12:10～14:30	市街地全住民	役場前 今金町農業協同組合	
			19日(火)	9:10～11:50 12:10～16:50	〃	今金町老人福祉センター 町民センター	
⑦	インフルエンザ	3歳以上で保育所・幼稚園・小学校・中学校の児童生徒	20日(水)	13:00～	今金保育所 今金幼稚園 小百合保育所	町民センター	2回目（追加免疫）
			21日(木)	13:00～	神丘小・神丘保育所 豊田小・豊田保育所 金原小・鈴金保育所 八束小・八束保育所	神丘小学校 豊田小学校 金原小学校 八束小学校	
			22日(金)	13:00～	種川小・中学校 種川幼稚園 田代幼稚保育所 中里小・中里保育所 花石小・花石保育所 美利河小	種川小学校 中里小学校 花石小学校 美利河小学校	
			27日(月)	13:00～	今金中	今金中学校	
			28日(火)	13:00～	今金小	今金小学校	
⑧	歯科検診	就学前全幼児	25日(月)	9:00～13:00	各幼稚保育所 一般幼児	町民センター	歯牙診査、検診、歯の出●ブラッシング指導、フッ素塗布、保健指導、サポ●ガイド（むし歯進行止め）
			26日(火)	9:00～14:00	今金幼稚保育所・小百合保育所		
⑨	結核健診	1ヶ月と3日以上の乳児	28日(木)	13:00～14:00	全地区	今金保健所	●問診X線写真

総務庁長官表彰

住民と行政との相談役



今金町本町

津島一良さん(61)

行政相談委員として、44年に町から推薦されて以来、今日に至るまでの16年間にわたり「住民と行政とのパイプ役」として努められてきました。

この授賞式が10月14日東京農林年金会館においておこなわれたものです。

津島さんは、今金神社の宮司を務められており、行政相談委員として活躍、巡回行政相談、住民との座談会、自宅相談、一日行政相談、定例行政相談所を開設するなど、更には、今金保健所管内衛生団体連合会長、町社会福祉協議会監事、町公平委員と幅広く活動しているものです。

相談員としての相談内容も多種多様と広範囲、カラオケ騒音の問題や交通事故、土地境界、役金、生活保護に罕り、国の出先機関、授場窓口サービス、金銭トラブルと誠に範囲が広く、その良き助言者として活動しているものです。

津島さんは、秋田県鹿角市生まれ、24～30年まで函館八幡宮に務められ、31年に今金町来町されました。

宮司として36年間にわたることから、今年3月、明治神宮において「神社本庁統理表彰（功績表彰）の授賞、更に今回と、二重の授賞となったものです。

道社会貢献賞
道社会福祉協議会長表彰

福祉につくして

北海道社会貢献賞

伊藤一治さん（69）金原

北海道社会福祉協議会長

栗山幸雄さん（59）東町

上田　茂さん（68）種川

の三名が表彰、この伝達が9月27日開催された第6回定例民生委員会協議会の席上にて町長から伝達されました。

伝達にあたり町長は、「伊藤さんにおかれては、20年以上にわたる貢献表彰であり、栗山さん、上田さんにおかれては16年、17年の貢献から表彰、栄誉あるものです。町行政にとっても、児童福祉、社会福祉の良き判断材料となる。貢献に感謝する。今後においても更に一層のご貢献をお願いする」とあいさつがありました。

授賞者を代表して伊藤さんは、「社会的になすべくこともなく過してきた。微力であるが、今後もつくして行きたい」とお礼の言葉を申し述べていました。

税を知る週間



昭和60年度行事予定

11月11日　納税貯蓄表式10:30～（八雲総工主館）
11月11日　表彰者表彰17:30～（八雲総工会館）
11月12日　書道講座　18:00～（八雲総工会館）
11月14日　税務研修会14:00～（今金保健会館）
11月15日　優良青年表彰、優良法人表彰式、懇談会11:00～（八雲町民センター）

八雲税務署から

事業主のみなさんへ

「雇用保険」に加入していますか

◎雇用保険制度は

働くみなさんが失業したときに必要な給付を行ったり、失業の予防や労働者の能力向上などを目的とする制度です。

従業員を一人でも雇用している事業所は、必ず加入しなければなりません。

従業員が安心して働けることは、経営の安定にもつながります。

〈お問い合せ〉

詳しくは、
函館公共職業安定所雇用保険適用課
☎　0138－26－0735
内線４２１まで

「コロッケ生産加工場の誘致」

業者に経営委託

7,500万円補助

※9月操業開始

地場産業の育成、農産物の付価価値を高め、農家経済の改善、安定を図ることを目的として、八雲町「酒井屋」コロッケ工場を誘致しようと、4月22日議会に提出。

町は、農産物加工施設整備事業補助金として、6千万円を計上、農協に補助、農協は酒井屋に委託運用を任せる。と言うものです。

このことについて議会は、運営方法、経営形態など将来を考え慎重にすべきである。このままでは今金町の活性化は図れない。など賛否両論、論議されたが、その結果、地域振興活性化をと補助誘致の決定がされました。

こうした論議の中には、酒井屋が52年に一時倒産の実例や今年1月に工場火災事件が発生するなどで操業を中止していた事などが上げられた。



コロッケ、コンベアーにのって

6月17日更に議会を開催、酒井屋から工場改修として、消防法の規制、電力施設等の関係から1千500万円の上積み、7千500万円の追加要求があった。当初から問題化されていただけに、この要求に対し議会は、執行機関のつめの甘さ、対応のしかたに問題がある。と指摘、論戦が交わされました。

酒井屋の操業開始は、当初5月が予定されていたが、こうした事情から延びのびとなり、7月中の操業見込みと変更された。更に、機械の導入・工事と延期、こうして話題多き施設も9月にオープンとなったものです。

「酒井屋」社長の話しによりますと、「10月末現在の従業者数は、20名、この内11名が今金町の住人が働いている。将来的には25名程度の従業員をもって操業したい。

生産は、現在1日当り、8万個～10万個を生産している。金額にすると100万～150万円を見込んでいる。生産資材の導入については、地元100%仕入れ、月60～70トンの資材加工をしている。

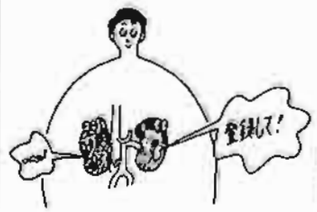
販路は、関東80%道内20%の割合となっている。今後の見通しは、2～3年後になるがジャガイモ1500トン、カボチャ150トン、スイトコーン、アスパラガス、玉ネギど各100トンを加工、更にはロールキャベツ、ポテトフライを含めたものの加工を計画している。

コロッケについては、機械能力からすると、12万～15万個の生産ができる。年間、7～8億円が見込める。

町から補助金もいただいているので地元にメリットのあるよう努力したい。」と話していました。

なんとかこの事業が成功し、地場産業の振興になればと思います。

腎臓移植を待つ人に愛の登録を



腎臓疾患で、人工透析をしながら生活している人は道内で2,500人いるといわれています。そのうち約1,000人の人は腎臓移植を希望していますが、腎臓提供の登録をされている方がまだ少ない状況です。1人の人間の2個の腎臓により、2人の患者が救われます。死後の腎臓提供登録にご協力をお願いします。

▷問合せ　北海道腎臓バンク（札幌市中央区北1条西7丁目 おおわだビル）へ



メノウ切断…飾

技術研修自信作

地域特産物生産センター

ぎじゅつ研磨

■■■研修を得て■■■

この施設について、8月号で紹介したところでありますが鉄筋コンクリート造り平家建396㎡、銘石、木工、わら、竹細工、加工をするものです。

この工事が9月に着手され、12月中には完成する見込みとなっています。

こうしたことから町では、技術者の養成をと、花石地区ともっとも所縁の深い福井県若狭メノウ組合に技術指導を依頼。施設利用組合員から選出された、山口義信さんと藤木政太郎さんの両名が8月から10月にかけて実日数10日間の研修を得てきたものです。

研修結果について、山口さんは、「メノウの切断、研磨、着色、穴明を学んできた。鳥だとか杯など多種あるが、もっとも初歩的なものとして"木の葉"形のものを細工してきた。若狭の組合でも半年あまりの経験者で、杯づくりをしている。手先の器用な人ならそんなにかゝらないと思う。

短い期間であったが何んとかなると、自信をもって帰ってきた。また、組合長からこれだけできれば立派なもんだ。と合格点をもらってきた。

花石メノウの資源は、昔はど良質なものではないがまだまだ地下に堆積している。若狭メノウは原石下足からブラジル輸入であり、花石メノウと比較すると花石メノウの方が良質であると思う。

実施過程での問題点は、着色、焼を入れることで、これがチョット今後の課題になりそうだ。」と話しておりました。

若狭メノウ組合では、若石の施設がオープンする時には是非きたい。指導の要請があればしたい。と話していたそうです。

町では、この運営にあたり、会員を募集して有効活用を図りたいと話しています。



未来を荷う

未経産の部最高位
鈴金　菊地一善さん
所有牛

第10回檜山北部
ブラック アンド ホワイトショウ

北部優良乳牛の展示

乳牛だけの家畜共進会が9月21日今金家畜市場において開催、今金、北檜山、若松、瀬棚と、72頭が出陳、内今金町の出陳頭数は36頭が参加、三位までの入賞総数33頭中、今金町は16頭が入賞したものです。

この開催目的は、優良乳牛の展示を行なうことによって畜産技術の向上と普及に努め、酪農経営者の安定と相互の親睦を図ることを目的として、4農協が主催、持ち回りで開催しているものです。

成績結果は、未経産の部の最高位には、鈴金　菊地一善さん所有牛（キクチ、エルクカー、クリスタン号）が、準最高位には、鈴岡　湯元智彦さん所有牛（ベルツリー、ローレンス、シール号）が輝かしい栄冠の座を確得しました。

八束小学校収穫祭

自分たちの成果 実り味わい



みこしワッショイ収穫まつり



「出店街」お母さん方の準備よろしく

10月15日、学校農園7アールに全校児童40人が、芋、大豆、小豆、トウキミ、カボチャを栽培。これは「私たちの時間」を利用、子供さちの体験活動を通して連帯感や協調性、植物の成育課程の勉強になるとして実施しているものです。

この収穫祭にあたり、尾上校長は「自分たちで作ったトウキミや枝豆、カボチャ、イモで、フライドポテト、おしるこ、イモ、カボチャの塩煮と、お母さん達が朝早くから作ってくれました。たくさん食べて祝いましょう。」とあいさつがありました。

児童から農園活動について、枝豆班、トウキミ班、ジャガイモ班、カボチャ班から、それぞれ報告「あつくて大変だった。草とトウキミとを間違って抜いてしまった。イモ掘りはつかれた。」などの低学年からの発表。「小学校最後の収穫、大変だったけど楽しかった。中学校に入ってもこうした事があればと良いと思う。」との高学年からの発表があるなど、石川 正さんから昔話しをと「今日はお招きありがとう。お爺ちゃんの時代はこうしたことが出来なかった。おもしろいと言うこともあまりなかった。先生の指導で楽しいことができ良かったね。社会にでた時にも役立て、頭をみがいて立派になってください。」との話しや、また、境田PTA会長から「すばらしい収穫祭おめでとう。皆んなの家庭でも収穫祭ができたのではないか。

今の学校農園は、冬はスキー場、夏場は畑にと利用している。道路も良くない所にある。今、お父さん達と相談して学校のそばに作ろうと話している。皆んなにつらい思いをさせないで済むと思う。」とあいさつしておりました。

収穫祭には、イモ、カボチャ、トウキミ、枝豆を形どった「みこし」が体育館内をかけ声とともに練り歩くなど、お母さん達による出店街には「おしるこ、イモ、カボチャの塩煮、おもしろくじ、わたあめ、金魚すくい、ヨーヨ」が陳列されるなど、児童もさることながら、お父さん、お母さん、お爺ちゃん、お婆ちゃんも楽しんでおりました。

学校は、この行事について「55年から実施。参観日を利用してやっていた。今年は、思考を変えたものです。父母ばかりでなく、祖父母にも呼びかけたものです。」とのこと。今日ばかりは祭一色の学校内、楽しい一日であったようです。

北海道電力からのお願い


伐木注意
電線の近くで伐木されるときは必ずご連絡下さい。
北海道電力
連絡先

送電線の近くで立木の伐採をする時は非常に危険ですので最寄りの北海道電力に連絡し、立会を求めて作業してください。

（立合は無料）



「ハイキング」昼食は、草原で見えやすな

第6回スポーツまつり

「10月10日」体育の日

秋晴れあせ爽快

健康と体力の保持、自然に親しむことを目的とするこの行事が「10月10日体育の日」を祭日と定め、教委、社会教育係で実施しているものです。

晴天に恵まれたこの日、午前9時、ゲートボール、ハイキンググループ308人が参加、健民グランドに大集合。

ゲートボールチームは、小学生を始め、主婦や老人クラブの人達126人が参加、老いも若きも楽しみました。

ハイキングチームは、小学生や父母188人が参加、日進の古山さん宅前までバスに乗り、そこから日進牧場までの3.5キロを徒歩とするものです。

第一キャンプ地、日進水道水源地では、牛乳をごちそうになったり、時間を忘れての魚つりの子供たち、おやつを食べる子供たち、キノコ採りのお母さん方と様ざまでした。

コース途中においては、山ブドウを採る人、色づいた景色を眺め歩く人など、牧場広場を利用しての昼食、ジンギスに舌つづみを打ち、弁当やオヤツを食べる人、草原を駆ける子供たちと思い思い、楽しんでいました。

午後2時からは利別ロードレースが催され、コースは今金橋から田代橋間を一周するコース、小中学生を始め、ランナーズ、郵便局、商工会、役場の職員チーム382人が参加、300人あまりの観集から声援がおくられて力走、奮闘していました。

この日の参加延べ人数は690人、晴天に恵まれた良き一日でした。

交通安全街頭啓発

シートベルト着用のお願い



シートベルトにより日本生命の腐化を

日本生命（株）今金支部が10月9日国道230号線沿の役場前に於て、30名が出動して行き交う車に呼びかけをしたものです。

百台あまりの車に「ふれあいかえる」無事故祈願のふだを配布し交通安全を願ったものです。

これは、「交通安全の意識の高揚に少しでも役だてば」と日本生命今金支部が企画、実施したものです。

10月15日には、輸送繁忙期であり、事故防止にと事業団体、農協、電電、営林署、開発、岩橋銀、東ハイヤーの6個体が交通安全指導員や今金警察署員の協力を得て、ヤクルト、ティッシュを百台に配布し、交通事故のないようにと呼びかけをしたものです。

今金町の近年における交通事故状況は、次のとおりとなっています。お互に事故のないことを願うものです。

年区分	発生件数	うち死者	うち傷者
58	13	1	13
59	23	2	34
60（9月現在）	5	0	6



11月の休日当番医

3日	今金町国保病院	☎②0221
4日	北檜山町国保病院	☎④5321
10日	富田医院(今金)	☎②0324
17日	岩間医院(今金)	☎②0057
23日	平病院(北檜山)	☎④5011
24日	平病院(北檜山)	☎④5011

11月の主な行事予定

2日　北部4町職員協議会
今金町民センター　PM1:00

3日・4日　総合文化祭（文芸の部）
総合体育館

10日　空手道今金支部大会　（総合体育館）

10日　総合文化祭（芸能部）町民センター

12日・13日　町内対抗ビーチバレーボール大会

17日　町民インドア・テニス大会

23日　管内バスケットボール
スポーツ少年団大会（総合体育館）

◎常設、季節、へき地保育所お遊戯会
11月8日種川　11月12日八束　11月15日神丘
11月17日鈴金　11月17日今金　11月21日小百
合　11月22日田代　11月26日豊田

◎同上閉所式　11月30日

昭和61年度訓練生の募集

1、募集期間
新規中卒者　11/4～翌年1/31
新規高卒者　9/2～11/30

2、訓練科
土木施工管理科、建築科
(18歳以上、高卒者)
左官科(中卒者)
詳しくは江差高等職業訓練校まで☎00395－2－0160

戦没者等の遺族に対する特別弔慰金支給法の一部が変更

1、支給対象者
(1)昭和6年9月18日以降戦死又は、戦病死された方の遺族で昭和60年4月1日において遺族年金、公務扶助料などの受給者がいない遺族について総額30万円を10ヵ年に分割して支給されます。
(2)特別弔慰金は、戦没者の配偶者、子、父母、孫、祖父母、兄姉妹、三親等内の親族のうち先順位者1人に対して支給されます。

2、受付時期及び照会先
11月15日受付。詳細は、
町民福祉課福祉係まで

3、説明会の開催
11月11日午後1時、町民センターに於て、手続等について説明会があります。

住民の動態

9月末現在

		前月対比
人口	8,549	(＋8)
男	4,132	(＋3)
女	4,417	(＋5)
世帯数	2,572	(＋1)

☒おたんじょうおめでとう

福士あや乃　10月2日（優悦　長女）南栄町
伊藤　翔太　10月3日（富士男長男）大和町
近田　勝　10月6日（勝彦　長男）緑　町
坪田　豁　10月9日（　勲　長男）金　原

☒いつまでもおしあわせに

9/26　竹林信幸（日の出町）＝柳　寛子（南栄町）
10/5　久ヶ沢正幸（八　東）＝波　サユミ（金　原）

◆おくやみもうしあげます

渡辺　一輝　9月25日　0歳　本　町
長崎音次郎　10月3日　69歳　種　川
笠間　チヨ　10月4日　58歳　末広町
町河　きよ　10月7日　91歳　神　丘
長谷川藤五郎　10月13日　79歳　田　代
中山　源一　10月19日　76歳　鈴　金

発行／北海道今金町役場　tel代②0111番　編集／企画調整課広報広聴係